

## 「岳都カトマンズ訪問とアンナプルナ撮影紀行」報告概略

「岳都カトマンズ訪問とアンナプルナ撮影紀行」は、2010年12月26日～2011年1月4日までの日程で、松本市民を始めとする参加者13名とカトマンズ参加者2名の総勢15名により、実施致しました。

参加者一行は、カトマンズ市を表敬訪問して古都カトマンズを探訪し、アンナプルナ山群の山麓を奥深く巡り、プーン・ヒル3194mの登頂を見事果たして、MHC松本カトマンズ姉妹都市交流事業としての「山と美しい自然」を仲立ちとした岳都交流と、松カ姉妹都市交流の責任も果たして参りました。



世界文化遺産カトマンズ・ダーバースクエア 仏陀像 アンナプルナ前衛マチャプチャレ 6993m

12月26日夜遅くカトマンズに無事到着。翌27日AM11:00、早速カトマンズ市役所を表敬訪問。アナンダ・R・ポハレル市長代理、代議士や市職員らに出迎えていただき、挨拶を行いました。午後は、世界文化遺産ダーバースクエアの建物群や仏教遺跡スワヤンブナートを探訪。夜は市内のレストランでカトマンズ市主催の歓迎レセプションに招待され、これからのトレッキングを激励されました。



世界文化遺産 仏教寺院スワヤンブナート 基壇のマニ車を回す カ市歓迎レセプション、アナンダ市長代理(右)

翌12月28日、国内線で西方のポカラへ飛び、明るい陽射しと緑豊かなアンナプルナ山麓を巡るトレッキングを開始。案内役として、パサンテンバ・シェルパサーダーはじめ、ポーターら23名が同行。ポカラで昼食後、バスに揺られて1時間半、ナヤブルで下車し一時間歩いて、PM4:00ビレタンティに到着、泊す。夕焼け空の北方、間近にそそり立つマチャプチャレ6993mが紅色に染まって行く。



145 ポカラから望むアンナプルナ山群

乗り込んだ貸切バス

マチャプチャレを望みトレッキング開始

29日、AM7:45 出発。モディ・コーラ川沿いの道を歩き、段々畑の村々を結ぶ自然石の階段を、一歩一歩登っていく。キムチェ村で昼食。石階段の道を、荷を担うロバの行列が通過し、村人が羊の群れを追う。マチュプチャレを望みながら、長い石階段を登り続けると、PM3:30 ガンドルンに到着、泊す。眼前には、アンナプルナ・サウス 7219mの白峰が遮ることなく聳え、圧巻される。陽が傾くと、ヒマラヤの峰々が紅色に染まっていく。夜空には、満天の星が輝いていた。



村々を結ぶ自然石の階段を登る      荷を担うロバの列とすれ違う      夕陽に燃えるアンナプルナサウス 7219m

30日、朝陽に輝くアンナプルナ・サウス、マチュプチャレを間近に望みながら、菜の花咲く山道を行く。急坂の石段を登り詰めた峠で昼食を摂り、午後にはネパール国花ラリーグラスの林に覆われた山中を進む。高さ15mを超える大木の林を通り抜けると、PM2:10 タダパニ 2721mに到着、泊す。ここからは、更に展望が開け、アンナプルナIII峰 7555m、アンナプルナII峰 7937mのピークが望まれる。



青空の下、菜の花咲く山道を行く      ラリーグラスの林を抜ける      夕照に輝くマチュプチャレとアンナプルナIII

31日、東の空に厚雲が漂う夜明けを迎える。ラリーグラスの林を抜け、溪流沿いを歩き、林の中を登り詰めたデウラリ峠 2990mで昼食。この頃から雪が本格的に降り出す。昼食後、降雪の尾根道を歩き長い自然石段を降り続けると、PM3:00 ゴラパニ 2895mに到着、泊す。ロッジ内に薪ストーブが燃え、暖をとる。夕方、上空が少し明るくなるが、再び霧が覆い、周囲は夕闇の中に暮れていく。



ラリーグラス林の急坂を登る

春を待つプリムラの花

降雪の中を登る



マチャプチャレ 6993m



アンナプルナサウス 7219m と ヒウンチュリ 6441m

2011年1月1日 AM5:15、星空の下、ヘッドランプを点けてゴラパニを出発。登り始めると体調不良者が一人登山不能となり、付き添いにシェルパを付けてゴラパニに引き返させる。約10cmの新雪を踏んで、階段状の急坂を1時間程登り、AM6:30 プーンヒル・ピーク 3194mに14名が見事登頂する。



降雪を踏んでプーンヒルを目指す



夜明け前のマチャプチャレ



プーンヒルに見事登頂「おめでとう！」

空が白み、しばらくで東の空を橙色に染めて初日の出が昇る。西方に聳えるダウラギリ I 峰 8167m の頂が燃え、北方のアンナプルナ I 峰 8091m、アンナプルナサウス 7219mが赤色に照り輝き始めた。徐々に、聳え連なる先峰群が朝陽に眩しく照らし出され、プーンヒルから望むヒマラヤの峰々の全貌が、その姿を現した。荘厳な美しさに大感動を覚えながら、私達はAM7:45下山を開始する。



荘厳なダウラギリ I 峰 8167m



朝陽に輝くアンナプルナ I 峰 8091mとアンナプルナサウス 7219m (右)

AM10:00 ゴラパニを出発。ところで、登頂を断念した一人は、体調回復不可能と判断し、ポカラ支局と連絡をとり、急きょ救援を依頼。小一時間でヘリコプターが飛来し、ポカラの病院に収容してもらった。その後は、一晩で退院し、ポカラで参加者と合流し、カトマンズへ帰還する。これらの諸費用は、診断書もあり、海外保険で対応できる事となった。原因は高山病と診断された。(後日談)



アンナプルナを背景にゴラパニで記念撮影



下山を開始



キッチンポーターも帰りを急ぐ



ダウラギリ I 峰 8167m と ツクツェピーク 6920m



朝陽に眩しいアンナプルナ I 峰 8091m (左後方) と アンナプルナサウス 7219m

PM1:00 ウレリ付近で昼食。ここから急坂の長い長い石段を下る。溪流の吊橋を渡り、暫らくでPM4:45 ティルケドンガに到着、泊す。夕食後、シェルパ、ポーター23名にチップを、一人ずつ感謝を込めて渡す。その後トレッキング最後の夜の思い出に「さよならパーティー」を行い、ロク酒も手伝って、ネパールと日本の歌と踊りが飛び交い、「今日の日はさようなら」の唄で締めくくる。この夜、皆満足感と疲れでぐっすりと朝まで寝入る。



2011.1.1 からネパールイヤーで歓迎される 最後の夜「さよならパーティー」で歌と踊りの交流会を行う

1月2日朝早く出発。川沿いの道を2時間程歩き、AM10:30 ビレタンティに到着。ここで昼食を摂り、PM12:30 ナヤブルでバスに乗り込み出発。山道を走りPM2:00 ポカラ到着。ここで体調回復した一人と合流し、ポカラ空港から国内線で飛び、PM4:30 カトマンズ空港着。一旦ホテルに帰り、風呂で体を洗い、PM6:40 歩いて近くのレストランへ向う。この夜、松本ヒマラヤ友好会主催で、カトマンズ市長代理はじめ代議士、市役所部長らを市内のレストランに招待して、夕食を囲んでトレッキングの報告会を開催する。



ゴザの上で勉強する女の子



日向ぼっこする母子

家々に花が飾られた道を行く 緑豊かな段々畑

夕食の席で、参加者各人から異口同音に「素晴らしい自然と人々に感動した。また訪問したい。」と報告されると、アナンダ市長代理から「皆さんの一人一人の感動を大切にしたい、ネパールの観光発展の為に、市民交流を支援していきたい。松本の写真展の成功を期待し、ネパール、そしてカトマンズを紹介して欲しい」とのお言葉をいただきました。



アンナプルナとポカラ空港に「さようなら」国内線丸窓から望むマナスル 8163m カ市を招いて報告会開催

またカトマンズ市側の出席者から「今度はカトマンズ市側からも、積極的にトレッキングにも参加して交流を発展させたい」旨の発言があり、岳都交流の発展を期待して、盛況のうちに終了致しました。



2011. 1. 1 プーンヒル登頂後、アンナプルナ山群を背景に全員で記念撮影 ゴラパニにて



2010. 12. 27 カトマンズ市アナンダ・R・ポハレル市長代理を表敬訪問。

カトマンズ市役所前にて記念撮影。

1月3日早朝から、エベレスト展望のマウンテンフライトに出発。濃い霧の為飛行場で待機させられ、AM11:00過ぎ、ようやく飛来。1時間ほどでクーンブ山群を巡り帰還。昼食は、MHC 奨学生と交流会を持ち、彼らの健康的な身体と澄んだ瞳に、学生生活が厳しくとも、順調である事を実感する。



マウンテンフライトに飛び立つ 機内から身を乗り出すように見る 操縦席からのエベレスト 8848m

午後は、カトマンズの世界文化遺産、ヒンズー教の寺院パシュパティナート、仏教寺院ボドナートを探訪する。PM6:00には、ホテルを引き払い、PM7:00、MHC 支部会員シャンカール・ドンゴル氏の民家を訪問。サンタナポハレル夫妻らも同席し、夕食と酒宴が催され、ご馳走とお土産をいただく。



世界文化遺産パシュパティナート寺院の参道を歩く 遺体はヒマラヤを源流とする川に身を清め、茶毘される



世界最大のストゥーパを誇るボドナート 参拝者は、基壇を右回りに、数珠を持ち経文の入ったマニ車を回し巡る。

その夜遅く混雑するカトマンズ空港を発ち、1月4日夜明けに香港を経由して、PM1:45に成田空港へ到着。迎えに来た貸切バスで松本へ向かい、PM6:45松本駅アルプス口に到着、最終解散としました。

参加者の皆様には、本当にご苦労様でした。そして関係各位の皆様には、ご理解と、ご協力に深く感謝申し上げます。これらの事業を通じて、姉妹都市交流の責任と岳都交流の成果を挙げる事ができました。ありがとうございました。



カトマンズ滞在中、MHCの国際協力事業を行いました。

① 2010年12月27日 AM9:30、参加者滞在中のアンナプルナホテルへクムジュン校（ヒラリースクール）運営委員のパスンダワ氏が来訪。安曇野市穂高北小学校の文具と絵画、校長先生や児童会長の手紙を引き渡しました。

これらの文具等は、国際線でルクラへ運ばれ、ポーターに担われ、ナムチェバザールを経て、クムジュン校へ運ばれます。



クムジュン校運営委員に、穂高北小の文具を手渡す

②2011年1月3日 PM12:30MHC奨学生12名の内、この日平日の為、授業を終えた7名の奨学生が出席してくれました。健康的な身体と輝く目に困難を乗り越える力を感じ、安心致しました。



チェティン・ダルジ



ニグマ・ヌル



ペンバ・ジャム



ベマ・チェミジ



タシ・フティ



ツェリン・ドマ



ソナム・ドカ



事務局長パスンダワ



MHC大河原由紀子カ支部長



ヒマラヤントラスト副事務長  
ツクテン・シェルパ



全員、カトマンズの短期大学に通学。経営学、教育学コースなどを専攻し苦学しています。若い彼らが、ネパールの将来を背負って立つ事でしょう。

奨学生らと昼食を共にし学生生活について語り合いました。1996年設立以来MHC奨学生は、延べ60名を数えます。

③クムジュン校（ヒラリースクール）創設50周年記念事業の日程が、5月26～29日と決まり、ツクテン、ヒマラヤントラスト・カトマンズ副事務局長から、NPO法人松本ヒマラヤ友好会による学生寮・食堂・台所・水道建設とその後の維持、又卒業後短期大学生へのMHC奨学金支給などの貢献に対し、鈴木雅則理事長宛に、50周年記念式典に出席を招待する旨について、奨学生らとの昼食会の席上でスピーチがありました。招待状は、1月中旬に発送するとの事です。

2011年1月10日

各 位

岳都カトマンズ訪問とアンナプルナ撮影紀行 総責任者  
NPO法人松本ヒマラヤ友好会 理事長 鈴木 雅則



世界文化遺産カトマンズ・ダーバースクエア「ガルーダとマハデバ寺院」 撮影 鈴木雅則